

解答プリント「中学社会・歴史分野」

■確認プリント

単元:3 武士の台頭と鎌倉幕府

【評価の観点】 ㊦：思考・判断・表現 ㊧：技能 ㊨：知識・理解

解答例	解説
<p>㊦ (1) 荘園</p> <p>㊦ (2) 源氏, 平氏</p> <p>㊦ (3) イ</p>	<p>㊦ (1) 743年に墾田永年私財法が出され、開墾した土地の私有が認められるようになると、有力な寺社や貴族は土地の開墾を進め、私有地を増やしていった。この私有地が荘園とよばれるようになった。</p> <p>(2) 特に有力な武士団が、桓武天皇の子孫が中心となった桓武平氏と、清和天皇の子孫が中心となった清和源氏である。</p> <p>(3) 1086年、白河天皇は天皇の位を子の堀河天皇に譲り、自らは上皇として院政を始め、政治の実権を握り続けた。院の警備を武士が行ったため、武士の影響力が強くなった。</p>
<p>㊦ (1) エ</p> <p>㊦ (2) 御家人</p> <p>㊧ (3) エ</p> <p>㊧ (4) 六波羅探題</p>	<p>㊦ (1) 2つの内乱とは、1156年の保元の乱、1159年の平治の乱である。この乱に勝利した平清盛は、1167年に武士として初めて太政大臣となり、政治の実権を握った。</p> <p>(2) 将軍と土地を仲立ちとした主従関係を結んだ御家人は、将軍から領地を保証され手柄があった場合は新たな領地を与えられる御恩を受けるかわりに、将軍に対して忠誠を誓い、戦いのときは家臣を率いて出陣する奉公の義務があった。</p> <p>(3) 執権は初め、政所の長官をさしたが、北条泰時の時代から政所と侍所の長官を兼ねるようになり、幕府の実権を握った。</p> <p>(4) 六波羅探題は、承久の乱後に、朝廷の監視と西国武士を支配するために置かれた役職である。北条一族が代々受け継いだ。</p>
<p>㊦ (1) 二毛作</p> <p>㊧ (2) 定期市</p> <p>㊦ (3) c－法然 d－親鸞</p>	<p>㊦ (1) 二毛作は西日本で始まり、しだいに東日本へも普及していった。</p> <p>(2) 月に3回開かれる定期市を三斎市とよび、平安時代の終わりから室町時代にかけて各地で発達した。六日町、八日町といった地名は、この定期市からつけられたものである。</p> <p>(3) 法然・親鸞はともに旧仏教の圧力により弾圧され、法然は四国、親鸞は越後に流されたこともある。</p>